

俗ニウ。コント呼ブ、卽鬱金ノ略音ナリ、琉球種世上ニ多ク栽ユ、唐種モ享保年中ニ渡ル、其ニ形狀相ヒ同ジ、葉ノ長サ二尺許、蘭蕉ノ葉ニ似テ長シ、又芭蕉葉ノ小ナルガ如シ、葉ノ莖ハ青芋梗ノ如ク、長サ一尺許、葉淡綠色ニシテ叢生ス、秋月花アリ、細長葉數百鱗次スルコト一尺許、形欸冬花苞ノ老タルガ如シ、白色ニシテ末ノ方微紅ヲ帶ブ、葉間ゴトニ黃花アリ、衰テ後ソノ葉ニ頭皆アリテ、小鳥鳥ノ形ノ如シ、此草性霜雪ヲ畏ル、秋ノ末ヨリ土窖ニ入レザレバ枯レヤスシ、舶來ニ二種アリ、暹羅ヨリ來ルハ脂アリ、下品トス、琉球ヨリ來ルハ脂ナシ、上品トス、皆黃赤色ナリ、此ニ二等アリ、根雞卵ノ形ノ如クニシテ差狭ク、兩頭尖リ横文多キモノヲ蟬肚鬱金ト、薑黃ノ集解ニ云ヘリ、藥舖ニテカシラウコント呼ブ、卽老根ナリ、其旁ニ附タル嫩根ハ、形細長ク大サ小指ノ如ク、長サ一二寸ニシテ、兩頭一般ノ大サナリ、是集解ニ謂ユル四畔ノ子根ニシテ、藥舖ニテジクウコント呼ブ、ジクトハ細キヲ云フ、筆管ヲ俗ニ軸ト云、老根ハ染家ニ賣リ、又薑黃ニ充テ賣リ、嫩根ヲ鬱金ト爲シテ、醫家ニ賣ルハ非ナリ、藥ニモ老根ヲ用ユベシ、

〔廣益地錦抄〕^五鬱金^{こん} 春宿根より生ル、葉形我朮のごとく、又だんどく草の葉に似たり、花さく事まれなり、葉をながめ根はうこんに用る也、寒氣をおそる、冬は根を取日向成所の土中にうづみおくべし、三月にとり出し植べし、

〔剪花翁傳〕^四鬱金蕉 花白、形囊荷の花に似たるもの四方に出て、段々高く伸咲なり、開花八月下旬より九月に咲也、方日向、地二分濕、土回塵、肥淡大便、寒中花前に淡小便を澆ぐべし、分株春彼岸よし、移三月中也、花後より三月迄霜覆ひすべし、盆に栽る時は油糟を入べし、九月より三月迄地窖に入べし、世俗に所謂鬱金粉は卽此根也、

〔草木六部耕種法〕^四需根 茜草紫草ノ根ヲ作ル法

鬱金ハ熱帶ノ地^{赤道下ヨリシテ夏至規ニ至リ、ニ}赤道^{十三度半ノ間ニ係ル}ノ國土ヲ云フ、ニ繁生スル草ナリ、故ニ寒ヲ畏レ霜ニ傷ムコ